

Profile

福山市西学区

西学区は、福山市中心部から西側へ広がる地域で、住宅とあわせ、商業施設なども立地しており、2011年（平成23年）現在、約4,100世帯が帯が暮らしています。



住民の手で作る 「助け合い台帳」

西学区自主防災協議会では、以前から、研修会や普通救命講習、防災資機材の使用訓練など、防災に関する知識や技能の向上に取組んできていましたが、もっと身近なところから活動を進めていこうと、災害時に、誰が誰を助けるかを決めた『助け合い台帳』の作成にとりかかりました。台帳の作成にあたっては、事前準備として、協議会を構成する町内会の会長などを集めて、勉強会を実施するなど、作成の工程がスムーズに進めることができるよう、工夫が凝らされています。また、作成された台帳は、町内会長が金庫に保管し、厳しく管理することで、個人情報保護にも努めています。

「黄色いリボン」で 効率的な救助活動を

西学区自主防災協議会が進めている取り組みの一つに、『黄色

いリボン掲出運動』があります。これは、災害が発生した際、被害を受けていない世帯が、玄関やベランダに黄色いリボンを掲げることで、救助が必要な世帯と、必要でない世帯とを

すばやく判断し、救助の効率を上げることを狙った取り組みです。

黄色いリボンは、平常時には、空の容器に入れて、家庭内の冷蔵庫などに保管しておきます。

この空容器の中には、黄色いリボンと併せて、そこに住んでいる人の名前や、緊急時の連絡先、かかりつけの病院などの情報を記載した防災カードを一緒に入れておくことで、緊急時における

救助効率の更なる向上も図っています。

助け合いの精神を より一層育むために

隣近所との繋がりに視点を据えた活動により、疎遠になりがちだった近所との付き合いも、再び生まれきています。また、災害時の行動を効果的に行うための訪問活動も、お互いの信頼関係を深めることに繋がっています。

災害に備えるためには、地域で一致協力して取組むことが非常に重要です。

ソーシャルキャピタル（社会における「信頼」や「繋がり」など）に関

する内閣府のとりまとめによると、「信頼があると自発的な協力が生み出され、自発的な協力が信頼を育てる。」という報告があります。

災害時に、地域としてその力を最大限に発揮するためには、まず住民一人ひとりが、その地域の一人であるという自覚を持ち、お互いの信頼関係を育てていくことが大切です。

